

令和7年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600888	事業の開始年月日	平成18年3月1日
		指定年月日	平成18年3月1日
法人名	社会福祉法人 雄飛会		
事業所名	グループホーム あいおい		
所在地	(〒246-0016) 神奈川県横浜市泉区和泉町7832-1		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	令和8年7月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9名定員、1ユニットのアットホームなグループホームです。 利用者様の一人一人が自分のやりたい事、出来る事を可能な限り叶えていく形を、職員全員が理解し、日々のケアに努めています。 利用者様の身体状況は様々ですが、笑顔で過ごされる事を大切にし、まるで家族として当たり前にいるかのような環境作りに取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和8年2月3日	評価機関 評価決定日	令和8年4月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当事業者は、相鉄いずみ野線「いずみ野」駅から徒歩で約7分の公園や畑が点在する緑豊かな田園地帯に立地している。木造平屋建ての1ユニットのグループホームである。運営母体の「社会福祉法人雄飛会」は、特別養護老人ホームのほか、通所介護事業、居宅介護支援事業、短期入所生活介護などの事業を展開している。
【利用者主体の支援の実践】 法人理念の「人格を尊重した思いやりのある温かいホームを目指します」に基づき、職員間で話し合い、事業所の運営方針を定めている。職員は利用者の意向の把握に努め、各々が出来ることを大切にして、見守りを重視している。利用者は、散歩や清掃、洗濯物たたみ、包丁を使った調理や下ごしらえ、後片付けなどに参加している。食事は利用者の意向を尊重した献立を作成し、提供している。また行事食なども楽しみ、ゆずジャムや金柑のはちみつ漬けを職員と一緒に作っている。利用者は、前庭で体操や外気浴など行っており、自由にのびのびと過ごしている。1ユニットのため、職員の目も行き届いている。介護福祉士などの資格を有する経験豊富な職員が多く、入居から看取りまできめ細かな支援を実践している。
【法人内の各事業との密接な連携】 運営母体は、グループホームの他に各種事業を展開する社会福祉法人として介護福祉サービスを通して地域に貢献している。法人内の特別養護老人ホームとは特に連携しており、重度化が進んだ時点での受け入れの要請や、看護師の毎週の訪問による健康管理、リフト車やリクライニングの車いす、床ずれ防止用具などの貸し出し、病院の送迎、会議室などの施設も利用している。勉強会や各種行事にも参加している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームあいおい
ユニット名	

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・運営方針を施設玄関に掲示。 常に目の付くところに提示する事で全員が意識している。新人職員にはオリエンテーションを行い、説明を行っている。	法人理念「人格を尊重した思いやりのある温かいホームを目指します」は、開設時に作成した。事業所では、法人理念に基づいて職員と管理者が話し合って4項目の運営方針を策定した。理念と運営方針は玄関や事務所等、常に確認できる場所に掲示して、浸透を図っている。管理者は特に「人格を尊重する」ということを大切に考え、一人ひとりの違いを認め、そのままを受け入れるように指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、月1回の町内清掃にも積極的に参加し、地域の方との交流を深めている。清掃時に班長からの回覧板等の情報を共有している。	「和泉台自治会」に加入している。毎月の地域の清掃には職員が参加している。地域の情報は、回覧板や班長との交流を通して、収集している。班長は当番制のため、管理者も担ったことがある。近隣を散歩する際には、地域の方と挨拶を交わしている。今後、新型コロナ禍以降、中断しているボランティアの受け入れを再開する予定でいる。地域行事には、多くの方の参加があり、感染症対策の観点からも利用者の参加を見合わせている。事業所の行事に地域の方の参加を望んでいる。計画作成担当者を兼務している現管理者（昨年9月に内部昇格）は、今後、地域との交流を図っていくことを予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会のイベントに可能な限り参加し、認知症の理解を深めて頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	2ヶ月に1度、偶数月に開催して いる。近況報告や意見交換を行 い、サービス改善に努めてい る。	運営推進会議は、2ヶ月毎に、対面で開催してい る。参加メンバーは、自治会長、民生委員、地 域包括支援センター職員、管理者、職員であ る。現在、家族の参加はない。議題は事業所の 活動報告、行事案内、事故報告、情報交換など である。委員からは、特に提案などは上ってい ないが、社会福祉協議会の案内で、管理者は地 域との防災協定の在り方について、次回の運営 推進会議で話し合う予定にしている。見学者の 状況について説明した際に、該当の見学者が、 委員を務める地域包括支援センターの介護支援 専門員の担当であることがわかり、情報交換し て連携した事例がある。	運営推進会議に、家族（家族 代表）の参加がありません。 家族の意見の把握や、事業所 の活動について理解してもら うためにも、家族の参加を希 望します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	現在、生活保護受給者の入居は ないがを受け入れは可。その際 は生活支援課の担当者と密に連 絡を取り、近況を報告するよう にしている。	窓口となる泉区の高齢・障害支援課には電話等 で相談をしている。運営推進会議の議事録も郵 送している。現在、生活保護を受給している利 用者はいないが、生活支援課とは連携してい る。泉区から研修の案内は届いているが、人員 配置等の理由などで参加が叶っていない。区 のグループホーム連絡会に加入しているが、参 加できていない。今後は参加して情報交換をし たいと考えている。毎月行われる地域の清掃活 動に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象 となる具体的な行為を正しく理解するととも に、身体的拘束等の適正化のための指針の整 備、定期的な委員会の開催及び従業者への研 修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身 体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わず、状況に応じ たケアを実施している。 身体拘束廃止委員会で研修を 行っている。	身体拘束廃止の指針を定め、3ヶ月毎に「身体拘 束廃止検討委員会」を、法人本部の特別養護老 人ホームと合同で開催している。特別養護老 人ホームの施設長、事務長、介護支援専門員、看 護師主任、フロア主任、事業所の管理者をメン バーとし、夜間帯に実施している。研修は、年2 回、期間を定めてe-ラーニングで実施してい る。職員は、受講後に確認テスト実施し、結果 を提出している。管理者は、否定的な言葉遣い 等のスピーチロックについて、職員に注意を促 している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて職員全員で理解を深めている。 虐待を発見した際には速やかに報告するように指導している。	高齢者虐待防止の指針を作成し、「身体拘束廃止検討委員会」と同日に「虐待防止委員会」を開催している。「身体拘束廃止検討委員会」と同じメンバーである。研修は、年2回、e-ラーニングで実施している。職員は、受講後に確認テスト実施し、結果を提出している。万が一にも虐待が発生した場合には、直ちに管理者に報告することになっており、法人への連絡もするようになっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修などを通して学び、ホームの生活においてその知識が活かされるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族に分かりやすい言葉を選ぶと共に、十分に時間をとって理解できるように説明をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当日の面会等の要望は、可能な限りすぐに対応するようにしている。 また、日常的にご家族とコミュニケーションがとれる関係性を構築し、気軽に意見や要望を伝えやすい環境作りを心がけている。	面会時や電話連絡、メールなどで家族の意見の把握に努めている。現在は、全利用者について、家族は来所しているが、日頃から、電話やメールなどで常に連絡を取って、家族とのつながりを大切にしている。家族からは、個別の支援についての要望が多く、運営に関しての意見は上っていない。利用者の意見については、日々の支援の中で把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や、勉強会等の時間を使い、意見等を聞いている。 また、連絡ノートを使用しており、いつでも書き込める様にしている。	日々の支援の中で、職員の意見の把握に努めている。職員は連絡ノートなどに意見や要望を記入し、皆で共有している。法人本部の特別養護老人ホームの会議室を利用して、毎月1回の会議を予定しているが、叶っていない。職員の意見として、遅番者の欠勤時の超過勤務の対応を明確にして欲しいとの要望があり、早番遅番ともに、30分の超過勤務で対応するように取り決めた。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部に行くことがある為、その際には理事長に気軽に相談できる環境である。	職員の出退勤はタイムカードを用い、日々の記録をパソコンに保存、法人が一括管理している。年1回、法人がストレスチェックを実施している。相談窓口を設けて、産業医にもつながりがある。年1回、法人理事長と管理者が人事考課の面談を実施している。資格取得の支援として、認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、介護支援専門員研修、介護福祉士の研修費用を法人が負担している。資格取得後は手当が支給される。職員は、休憩時に、事務所で休んでいる。法人は、年に1回、ハラスメント研修を実施している。ケア記録などはパソコンに入力し、介護計画とは連動できるシステムだが利用できていない。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画をもとに、職員全員に対しての技術とスキルの習得機会を設けている。 イーラーニングを導入し、いつでも視聴できる環境整備を行った。	法人は、年間研修計画を作成している。研修は、e-ラーニング形式で、職員は受講後に確認テストを実施し、結果を提出している。新人研修は事業所で実施しており、管理者が座学研修ならびにOJT研修を行なっている。常勤職員が2名で、他は非常勤職員であるが、全員がe-ラーニング研修を受講している。介護福祉士の資格取得者が多く、経験豊富な職員が在籍している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	本部の勉強会や歓迎会に参加する機会を設けている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族、担当ケアマネジャーより詳細に話を伺い、本人の困っている事、不安な事を傾聴し、安心を確保できる関係作り繋げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、家族の不安を払拭する事に時間をかけている。 特に家族の要望や意向に関してはよく話し合い、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に、本人や家族に状況を伺い、「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービスが適当と思われる場合は、そちらを勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごすことを前提に、楽しみや喜び、苦しさや痛みを分かち合えるような信頼関係を築き、共に支え合えるような関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、家族の心配事や不安等を気兼ねなく話して頂いており、共に利用者を支え合う関係作りに努めている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや親戚の集まり等、以前から行っていた事が今でも行えるよう、支援に努めている。	友人、知人の来所は少ないが、居室で対応している。電話の取次ぎや、手紙のあて名書き、投函などを支援している。家族対応で墓参りや馴染みの理容室に行く利用者もいる。昔家事をしていた経験から、調理や洗濯物たたみ、裁ちばさみを使った裁縫をする利用者もいる。工作の好きな利用者が作った季節の飾りつけの梅の花をリビングの壁に飾っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームで生活を共にするにあたり、今までホームにいらっしゃった方との良い関係が築かれるように、日々の生活での関わり合いを大切に支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の特養に入所された場合は、当施設での情報を提供するなどし継続的にフォローをしている。本人や家族が問題に合った際は、相談・支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	重度の認知症の利用者からの思いや意向の把握には大変苦慮していますが、家族から等の情報や、入居前の生活を考慮し、意向の把握に努めている。	入居時のアセスメントや日々の支援の中で利用者の意向の把握に努めている。家族や入居前の介護支援専門員に聞くこともある。発語の困難な利用者には、表情やしぐさなどから推測している。把握した情報は、連絡ノートやケア記録で共有し、介護計画に反映させている。職員はなるべく入浴や散歩、就寝前の1対1の場面を大切にして、利用者の意向や本音の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の個々の生活歴を把握する事は重要な事であり、家族の協力を得る等、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や行動、心身の状態を注意深く観察し、変化があればケースに記録を行い、職員全員が把握できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となり、ケース記録をもとにご家族・本人の意向を把握するよう努めている。また看護師などの意見も反映し作成している。	新規利用者は、アセスメントを実施し、初回介護計画を作成し、1ヶ月で見直している。次に3ヶ月、その後は他の利用者と同様に6ヶ月毎に見直している。変化のある場合には、その都度見直している。家族の意向は面会時のほか、電話やメールで把握し、医師や看護師の意見は往診時や往診ノートで把握して、介護計画に反映させている。居室担当制を導入し、担当の職員が、利用者の情報を介護計画作成担当者に伝えている。全体でのカンファレンス（サービス担当者会議）は行っていない。計画作成担当者である管理者が居室担当者ならびに連絡ノートやケア記録から情報を収集して介護計画を作成している。	職員が参加して、カンファレンス（サービス担当者会議）を行うことを希望します。全職員が個別介護計画の作成に参加をし、介護計画を共有することで、介護計画を中心に据えた支援が日々実践されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや体調変化等、すぐに対応ができるように、ケース記録や連絡ノートに記載し、職員全員が情報共有を行い、ケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人・家族の要望に対して、ホームとしてできることに関して、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催による、情報の共有。 自治会に加入しており、地域のイベントに参加できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診がある。24時間対応となっている。 新規入居者へは、内科往診医の理解と承諾を頂き、個別の医療に関しては、家族の協力と理解を頂いて対応している。入居前から利用しているクリニック（眼科など）を継続して受診できるようにしている。	総合病院とクリニック、歯科医院が協力医療機関になっている。利用者は、月2回、クリニックの内科医の訪問診療を受診している。法人本部の特別養護老人ホームの看護師が来所して、健康管理をしている。歯科医は希望に応じて、来所している。通院は、施設での対応を医師と相談する為、眼科、精神科などに限らず受診全般を職員が対応している。病院での待ち時間が長く、利用者が不安になることが予想される場合は、家族にも同行してもらい対応している。往診医や看護師とは24時間連絡が取れる。受診情報は往診ノートやケア記録で共有している。かかりつけの薬局が一包化した薬を届けてくれる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の特養の看護師が毎週訪問している。 些細な事でも相談報告し、必要時には受診をしている。傷の処置方法や軟膏の使用方法なども指示・確認し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が付き添い、サマリーにて情報提供を円滑に行っている。サマリーに乗らない情報（声掛けの方法など）も提供している。退院時にも職員が送迎などの援助を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と事前にターミナルケアについての方針・理念を説明し、実際に行った取り組んだ事例を伝えている。 入所時と重度化した時に、本人・家族の意向を確認している。	看取りの指針やマニュアルは整えている。契約時に緊急時対応希望書、看取り介護希望書で延命治療と看取り介護の希望を聞いている。重度化が進んだ場合には、法人本部の特別養護老人ホームへの移動も可能である。家族、医師や看護師、管理者が話し合い、同意書を交わし、看取り介護計画書を作成して、看取りを実施している。本年度は、1名を看取った。看取り研修を年1回実施している。振り返りも都度行っているが、本年度はまだ実施していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生や急変時にはすぐに対応ができるようマニュアルを提示している。普通救命講習を終了している職員もいる。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施。 消防署立ち合いの際には、現状のハード面を考慮した避難経路と避難場所を確認している。	年2回避難訓練を実施している。内1回は夜間を想定した訓練である。利用者も参加し、近隣の方の参加もある。消防署の立ち合いは年1回で、消火訓練などを行っている。地域の防災訓練の研修のうち、介護施設合同の訓練研修に参加している。BCP（事業継続計画）の研修と訓練を本年度中に実施する予定としている。備蓄については、飲料水や食料品を職員分も含めて3日分確保している。またコンロやボンベなどの熱源も準備している。家具などには突っ張り棒を設置して、転倒防止に努めている。窓は地震で開かないようにロックしている。また非常口は非常時には自動解除できるようになっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
e	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の理解を職員一人一人が理解しており、言葉使いや対応に十分に配慮している。	年1回、e-ラーニングで接遇研修を実施している。トイレの誘導時には小声で周囲に気づかれないように注意している。また利用者の呼称は名字に「さん」付けにする等、人格に配慮している。居室に入る際にもノックをして、許可を得てから入るようにしている。個人情報を含む書類は、事務所の鍵の掛かるキャビネットに保管している。パソコンは記録用と個人情報に分けて、パスワードで管理している。個人情報を扱う際のパソコンの使用者は管理者と計画作成担当者に限定している。介護ソフトの入っているパソコンでは、家族へのメールをしないようにしている。法人により、パソコンのウイルス対策がなされている。職員に対して、散歩や買い物、受診時等の業務を除き、業務中の携帯の所持を禁止して、SNS対策を講じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方々との信頼関係を築き上げていき、毎日の生活の中で、気軽に思いや希望を表せるような雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々の生活のペースやリズムに合わせて、自らの意思で自由に過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で整容ができる方には、自身でして頂いている。 また、利用者個々の好みに合わせて衣類の選択をして頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむ事を、職員全員が理解しており、利用者が美味しく楽しく食事できるように支援している。 また、職員と共に、利用者も調理や片付けを会話をしながら楽しく行っている。	食事は手作りを基本としており、利用者と一緒に調理をする時間が大切と考えている。調理中の料理の香りがアットホームな空気を醸し出している。献立は利用者の意向を尊重して作成し、食材は配達業者に委託している。足りない食材は職員が近隣のスーパーで購入している。家族の同意を得て包丁を使って調理する利用者もいる。下ごしらえや後片付けなどを手伝う利用者のために大きなテーブルをキッチンに置いている。季節の行事に合わせた行事食を提供している。正月にはおせち、クリスマスや誕生日会にはケーキを購入し提供している。敬老の日にはお赤飯を、鏡開きにはお汁粉を提供している。事業所の前庭でゆずや金柑を育てており、収穫した実を使ったジャムやはちみつ漬けを利用者と職員が一緒に作っている。外食は家族対応としている。体調に応じてきざみ食やとろみ食、ミキサー食などにも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の個々での対応とし、食事量や水分量の調整を行っている。 また、食事形態も嚥下状態に合わせており、ミキサー食まで対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診医のアドバイスを反映し、利用者個々に応じた口腔ケアを行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の個々の排泄パターンの把握に努め、さりげない声掛けからトイレ誘導を行い、不快になることなく排泄できるよう支援を行っている。	自分でトイレで排泄をする利用者は3名、全介助で紙おむつを使用している利用者は3名、他の利用者はリハビリパンツとパッドを使用している。基本的には、排泄パターンを把握して、声をかけてトイレ誘導している。夜間は、睡眠を優先してポータブルトイレを使用する利用者もいる。トイレは3ヶ所あり、内1ヶ所は車いす対応である。退院時、紙おむつを使用していた利用者が、職員の支援により、紙パンツ使用となった改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便を促す為、適切な水分量・バランスの良い食事を提供しており、毎日の生活の中で継続的に予防に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間が楽しみで、リラックスできる時間である為に、職員と1対1で気兼ねなく会話を交えながら楽しんで入浴できるように支援している。 また、個々の状態に合わせてリフト浴も可能としている。	週2回を基本として、午前中から入浴している。希望があれば、回数や時間の変更は可能である。現在、同性介助の要望はない。入浴を好まない利用者には、担当者を変えたり、時間をかけるなどして対応している。事業所の前庭で育てたゆずを使ったゆず湯や菖蒲湯などを楽しんでいる。利用者の状態に応じてリフト浴を使用している。お湯はかけ流しとし、午前と午後には入れ替えている。浴室、脱衣所ともエアコンを使用してヒートショック対策をしている。お湯の温度を40度に設定し、やけど対策を講じている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にいつでも戻れるようにしている。 利用者の個々の睡眠状態を把握し、生活リズムが崩れないように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングしており、いつでも確認できるようにしている。 変更があった際にはケースに記録し、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の特技や趣味を把握する事で、生き甲斐に繋がるように支援している。様々な事柄を提供し反応を見ながら楽しめる事を見つけていけるように努めている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮した上で、近隣の公園に散歩に行ったりする機会を設けている。 家族の希望により、外食されたり外泊されたりと、外に気軽に行ける支援・サポートをしている。	天気の良い日には、車いすの利用者も参加して近くの公園に散歩に出掛けている。広い事業所の前庭で体操や外気浴を楽しむ利用者や事業所の裏手の畑を見ながら、事業所の周囲を散歩する利用者もいる。家族対応で外食を楽しむ利用者もいる。4月には車で、法人の駐車場の大きな桜の木の花見見物に出掛けた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を制限していない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだりして、可能な限りやり取りができるように支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく居心地が良い空間を常に意識し、リビングは季節感が味わえるように、職員が手作りの飾りを付けています。 また、利用者の中で工作が得意な方には手伝って頂き、共に楽しい時間が過ごせるようにしています。	リビングは木の温もりが感じられる。ソファが設置されており、利用者はのんびり過ごすことができる。エアコン、加湿器、空気清浄機が設置され、快適な空間となっている。壁には、利用者が作った梅の木の飾り物や手作りカレンダーが掲示され、季節感が溢れている。テーブルには利用者が紙で作ったゴミ入れが置かれている。毎朝窓を開け、換気に留意している。職員と利用者で、テーブル拭き、床掃除などの清掃を行っている。席替えの際には、人間関係や、誤嚥防止、耳の聞こえ具合、介助のしやすさ、歩行状態による座りやすさなどを十分に考慮して決めている。高さの変えられる洗面台がある洗面室兼洗濯室が備えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置。 自由に利用でき、リラックスして頂けるように工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事前に本人や家族と相談した上で、使い慣れた物やなじみの物を持ち込んで頂き、利用者の個々に応じた好みの居室を作り、居心地良く過ごせるように支援している。	居室はエアコン、照明、クローゼット、ベッドが備え付けられている。利用者は防炎カーテンや使い慣れたタンス、テレビ、ぬいぐるみなどを自由に持ち込んでいる。清掃は職員と利用者で行っている。大きなクローゼットがあり、1年間の衣類が保管できるので、季節に応じて居室担当者が衣替えを行っている。毎朝窓を開けて換気している。表札は大きな文字サイズで印刷されており、分かりやすい。離床センサーを使用する利用者が1名おり、離床センサーを個別契約している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場・洗面所・居室等、分かりやすいように表札を付けたり、声掛けを行う等、配慮している。		

別添 3

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあいおい作成日 R8 年 6月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画の作成に職員の関わりが少ない。	全職員が介護計画の作成に参加する事で介護計画を共有できるようになる。	ケアプラン見直し時には、計画作成担当者他、居室担当を中心にカンファレンスを行う。	1年
2	4	運営推進会議にご家族の参加が実施できていない。	ご家族に運営推進会議に参加していただき、事業所の活動について理解してもらう。	ご家族に運営委員会の趣旨を説明し、参加出来そうな日をうかがう。	1年
3					
4					
5					

注 1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注 2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。